

第 24 回アンケート結果（抜粋）

1. 一般講演 3 : 「知識・技術・技能の伝承支援に関する考察—暗黙知と形式知との関係—」

1. ポランニー氏と野中氏の暗黙知は、少し異なるように感じますが、どうなのでしょう？

（回答）参考文献によると、野中と竹内による「形式知」と「暗黙知」は人が有する「知」を認識の次元で区別するもので、それ自体はポランニーの考えに沿っていると思います。一方、ポランニーによる「暗黙知」は、そこを起点にさらに哲学的な思索を深めていますので、完全に一致していないと言えそうかもしれません。

2. SECI モデルのような議論は、ある意味で理解を深めていく（多面的に理解の視点を広げることを含む）方向の議論ではないかと思います。他方で、ビッグデータの議論は（因果関係はなくとも相関を見出せば良いとすると、相関を見出すプロセスには暗黙知や形式知があるにせよ）、得られる結果（相関関係）が与える知見は理解を深めるプロセスとは少し次元が違うように思います。もしかしたら SECI モデルを 3 次元にしたいくらいです。視点を定める可能性はあるのではないかと思います、いかがでしょうか？

（回答）SECI モデルや暗黙知と形式知という話題は、人の認識の次元という視点でとらえたもので、その視点ではビッグデータから得られる知見は形式知の一つに位置づけられます。一方、新たな知識をどのように獲得するかという点は、SECI モデルの範囲外ですので、いずれにしろ別の視点が必要と思われる。私の考察でまだ不足している部分ですので、今後検討する予定です。

3. ①暗黙知や技能が、今後、ICT デバイス等で見える化するでしょうが、形式知と暗黙知は本質的に分けられるものなのか、状況によって相対的に分けられるものなのでしょうか？

②とても興味深かったです。可能であれば、講演スライドを Web にアップしていただければいいな、と思います。

（回答）ありがとうございます。スライドの PDF ファイルは事務局に提出しますので、公開されると思います。私の理解では、講演で述べた判断基準によって形式知と暗黙

知は明確に分かれますが、暗黙知と呼ばれる知識の一部を形式知化することは可能です。一方、暗黙知の中には形式知化できない部分があり、特に人が知識を身に付けた状態の能力を指す場合は、形式知化できません。逆に、形式知と呼ばれる知識も、人が活用する時点では暗黙知になっている（＝知識が身に付いている）必要があるというのが、参考文献で述べられている内容と理解しています。

4. ①研究全体をうまく体系化しています。
②これに手法（事例ベース・インタビュー・クラスタリング等）を重ねていくと、より研究がよく見えてくると思います。

（回答）ありがとうございます。今後の考察の方向性として、ご指摘のような手法の分類や分析も必要になると考えております。

5. SECI モデルにおける「表出化」の部分は数式化やモデル化だと考え、「連結化」の部分は体系化されたモデルに基づいて学習や予測、推論を行うことで新たな「モノ（知識）」を生み出す過程と理解しています。

（回答）個人的には同様に考えています。参考文献において SECI モデルは組織における知識の変換を表現していますので、「連結化」に関して人工知能技術への言及が直接的には書かれておらず、個人の内面や複数人の相互作用による知識の創出が主となっております。

6. 「技能」の伝承に対する講演って、どういうものがあるのか気になりました。（単純に、このテーマはどのように発表するのだろう、という疑問です）

（回答）前報で公開した検索システムを用いて、「技能」をキーワードに探していただくと講演事例をご覧いただけます。「伝承」を扱ったものはその中の一部ですが、雰囲気は伝わるかと思います。

https://staff.aist.go.jp/y-furukawa/research_kst.html#eaglesearch